

縁と絆

行場 貴子

残暑お見舞い申し上げます。
照りつける日差しの下、キョウ
デクトウ、ノウゼンカズラなど夏
の花が力強く咲き誇っています。
今夏は、梅雨明けが遅く長雨から
やとと解放されたと思ったら、立
秋を迎えてしまいました。
はじめまして。今年の一月より
ふる里学会の一員として仕事をさ
せて頂き早や八ヶ月が経ちました
前任地での千葉県社会福祉事業団
には二十七年間お世話になりました
たが、その初年度(新人の頃)直
属の上司でありましたのが、里見
理事長です。二十一年の時を経て、
此の度、再び理事長の下で働かせ
て頂く事になり、ご縁の深さを感じ
ております。

ふる里学会という組織での仕事
しかも東京小石川福祉作業所での
勤務と初めてのことはかなりで無我
夢中で新鮮な毎日を送っていました
す。十八年度開始から四ヶ月が経
ち身体も慣れ、気持ちにもゆとり
が持てるようになりました。利用
者さんの笑顔に励まされ、支援ス
タッフのチームワークに支えられ
てようやく心身ともに充実してま
いりました。
さて、知的障害者福祉ですが、
障害者の世界がここ数年でめまぐ

ゆうけい

発行 者
社会福祉法人 佐野会
理事長 里見 吉英
〒290-0265
千葉県市原市今富
1,110-1
TEL 0436-86-7611
FAX 0436-86-7612
編集者 広報委員会

るしく変化していることを恥ずか
しながら、民間の施設に実感
致しました。長かった措置の時代
から平成十五年年度に支援費制度に
変わり、わずか三年あまりで、今
回の障害者自立支援法へと特た
なして進んでいます。「見切り発
車」で出発した自立支援法ですの
で、動き出してから、「あれも」
「これも」不具合で不合理な事が
明らかに増えていますが、当然と
いえば、当然の結果といえます。
特に知的障害者にとりましては、
ご本人はもろろんのこと、保護者、
事業者(施設など)においても大
変厳しい内容となっております。

もともと三障害(知的、身体、精
神)を一元化することに無理があ
り、その弊害が、知的障害者福祉
に押し寄せてきています。沢山の
課題を積み残したままの列車は何
処へ向かって行くのでしょうか。先
の見えない不安を抱いたまま暴走
している列車は、やはり止めなけ
ればいけません。途中駅で一旦停
止をし、荷物の確認(課題の検
証...)をしていく必要がありま
す。そのためには、みんなが声を
上げていかなければ解決しません。
身体障害者や精神障害者と違っ
て知的障害者は利用者ご本人が訴え
ることは、なかなか難しい状況で
す。ですから、彼らをとよりまぐ家
族、施設職員、関係スタッフなど
まわりの者が声を出していかなけ



れば、行く先が見えないばかりか
脱線しかねません。
声を上げ、その声を集約し行政
へ届けるために、今、全国至ると
ころで運動が繰り広げられていま
す。皮切りは六月六日、日本知的
障害者福祉協会主催で、東京日比
谷大音楽堂にて結成総集會が行わ
れました。北海道から沖縄まで当
事者はもとより、家族、施設及び
関係機関職員など五千人以上が集
結し、知的障害のある人達の暮らし
を守る為に、福祉サービスの確
保を求めました。

障害者が自らの意思で社会生活
を築けるように「自己決定」を
重視していく為に、措置から支援
費制度に移り変わりました。支援
費制度になり、知的障害者は自己
選択によって、サービスを選ぶと
いう未知なる事に足を踏み入れま
した。やとと支援費制度になじみ
始めたのに、何故このように急い
で障害者自立支援法を成立させた
ければならなかったのかわかりま
せん。せめて支援費制度をきちん
と検証し、皆が納得のいく明確な
答えを出していきたいものです。
障害者福祉の世界と同様に私に
とりましても、今年は大きな転機
を迎えました。ふる里学会での新
しい出会い、ご縁を大切に育てて
まいりたいと思います。そして今
までの経験を利用者さんの支援に
役立てるよう心を込めて関わって
いきたいと思っています。

東京と千葉の「かけ橋」役とし
て、そしてこの縁が更に深い絆に
結びつくように努めてまいります
末永くどうぞよろしくお願ひ申し
上げます。
(小石川施設長)

障害者自立支援法改善を

千葉県知的障害者入所施設
家族会連合会設立
ふる里学会家族会会長
山田 温道

去る七月九日「千葉県知的障害
者入所施設家族会連合会」が設立
されました。略して「千施連」と
称します。四月に施行された障害
者自立支援法により、施設にいら
れなくなる利用者が出たりする事
態が懸念されるので、他県の連合
会と連携して国などに改善を求め
ていこうとしています。
障害者自立支援法については、
以前から里見理事長が口をすっぱ
くして説明しておられ、大体の
ことは理解して「観念」していた
つもりです。若干の費用負担は避
けられないかなと...この新
法には、不安もありましたが期待
もありました。障害の種類(身体・
知的・精神)に関わらず障害のある
方々が必要とするサービスを利
用できるよう、サービス利用の仕
組を一元化すること、国や自治
体の責任を明確にする法制度を確
立すること、就労支援にも力を入
れることなどその基本理念には素
晴らしいものがあるからです。
ところが、いざフタをあけてみ



ると、とんでもない事が判明した
のです。たとえば、日本知的障害
者福祉協会の調査では入所更生施
設を利用している方で区分4以上
となる方は25.4%であり、年
齢を加味しなければ74.6%の
方が入所施設を利用できなくなる
という問題等が浮き彫りになりま
した。新法における新たな障害程
度区分は知的障害の特性や支援ニ
ーズを軽視しているのです。そし
て、これまでの知的障害者福祉サ
ービスを確保することが困難にな
るのです。一方、もう一つ困った
ことがあります。施設の運営が立
ち行かなくなる事です。判定が極
く出た人は、施設への報酬が大幅
に減額されるほか、報酬が日割り
計算になる為、利用者が楽しみに
している週末などの帰宅日は報酬
が算定されなくなるのです。これ
ではサービス提供事業者はその存
続すら危ぶまれるのです。
そこで、私も家族が本人の声
を代弁し
てきちん
と声を上
げていく
事が必要
であると
思い、千
葉県内す
べての施
設を利用する人の権利と生活を守
ることを目的として、保護者会・
家族会の連合会を結成したのです
これからは、県内の各団体や他県
の家族会連合会と連携して、国な
どに改善を求めていく事になりま
す。他県では現在十五都県でそれ
ぞれ家族会連合会を結成し、昨年
九月全国の連合会(全施連)が設
立されました。「千施連」も積極的
に全施連の事業に参加していく方
針です。
さて、連合会は設立されたもの
の、その運営は難題山積です。設
立から三日目に第一回目の幹事会
が開催されました。会長の柴垣氏
(大久保学園)、副会長の橋島氏
(しもふさ学園)と山田(ふる里
学会)、書記・会計など八人構成で
年齢的にも諸事に一家言を持ち、
わが子のことでは二十年も三十年
も苦労してきた面々ですから、か
じ取りの柴垣さんは大変です。議
論百出しても喫緊の課題は自立支
援法の抜本的な見直しを要求です
このような状況のとき、七月十八
日には「障害者自立支援法に対す
る緊急集會」を開催しました。も
ちろん単独では出来ません。次の
四団体のご好意で共催団体にさせ
て頂きました。(千葉県手をつな
ぐ育成会、千葉市手をつなぐ育成
会、千葉県自閉症協会、千葉県知
的障害者福祉協会)この緊急集會
では「四月に施行された障害者自
立支援法は、その制度の熟成が不
十分であり、このまま十月の新体
系への移行が行われると、利用者
の不利益や混乱を招く事は必至で
ある。私たちは、知的障害者の一
人ひとりの個性とニーズが大切に
され、安心して暮らせる千葉県を
熱望し、今回障害者自立支援法の
理不尽な部分の改善を強く求めま
す。」とアピールしました。今後と
も皆様のご理解とご協力をお願い
するものであります。
最後に、この度の「千施連」設
立に際し多大のご支援、ご鞭撻を
頂きました関係の皆様心から御
礼申し上げます。

くすぶりに！

山口さんちの

帰省日記

6月のできごと...

一泊旅行では大変お世話になりました。昨年は一般のお客様にご迷惑をおかけする大暴れをしましたので今年は参加を遠慮しようと思っていまして、先生方の作戦どおりなんとか暴れることなく旅行を楽しめました。宴会のステージで「やがやあんなにうまく「サライ」を歌えるとは思っていませんでした。長い歌なので途中で「もうおしまい」とどこかへ行ってしまうんじゃないかと思つてましたがあんな長い曲歌えるんですね。びっくりしました。

今回の帰省中は何度も「このペンがない」「あのシャツがない」と物が見つからなくなるとベニツクを返し、そのたびに買い物に出かけて探し回るといふ繰り返しが続きました。家に戻ってきた時くらいにのんびり過ごせばいいと思うのですが、一日中せかせかと何度も洗濯したり、私達に次々と幼年誌の付録作りをさせたり、ちつともじつとしていることがありませんでした。寝るのはいつも1時2時になり、眠ったかと思つたら朝4時にはもう起きてお風呂の水



を落として行き、私達を起こして洗濯が始まります。時々目撃をつけさせたり、縫い物をさせたり、本当に忙しいやうでした。ますますこうと決めたなら絶対に譲らない頑固な面が増えてきているようです。それではどうぞ宜しくお願い致します。

を落として行き、私達を起こして洗濯が始まります。時々目撃をつけさせたり、縫い物をさせたり、本当に忙しいやうでした。ますますこうと決めたなら絶対に譲らない頑固な面が増えてきているようです。それではどうぞ宜しくお願い致します。

夏休み...

こうやが夏休み中、良く食べよく笑い、親をこきつかないイタズラし放題でし



納涼祭の時、キリンのぬいぐるみの中が熊沢先生だとわかつた瞬間、うれしさのあまりジャンプして大喜びしてました。大和田先生の奥さまの志野先生に久々に会えた時のこのやの喜びよう、だつこされた赤ちゃんにやきもちを焼くかと思いましたが「いいこ！いいこ！」と言つて頭を撫でたのはびっくりしました。このやが赤ちゃんの頭を叩いた事はありましたが、いとおしそうに撫でたのは初めてです。大和田先生の赤ちゃんがこのやを見てニコニコしてくれたのがかわいかったのかもしれない。

毎日のお買い物が決まりの為、パンツ・タオル・おもちゃを買つてきてはトイレに流すというところから、ありとあらゆる物をトイレに流すというふうになスカレートしていきました。トイレに鍵を掛けるわけにもいかななくて、流す物を持つて走るこのやをダッシュし

追伸、昨日、オオヤで婦人もののピンクのズボンとどうしても買おうと買つて大出を申し、しようがなく買いました。家に帰つて来て、このやにわからせようと履かせてみたのですが、小さくて破れそうなので無理にゴムを引き伸ばし、名前を付けさせ持つていくと言つてきかないので持たせました。あんなピンクのビッチビッチのズボン、どうやって履くのでしょうか。その後の様子、わかりましたら教えてくださいませ。

(和田浦入所 山口荒野母)



全国大会を目指して！

中野 陽介

「中野！野球をやろう！」理事長からの一言が、全国大会へ向けてのスタートとなった。以前にも何度か野球をやろうという話になっていたが、いつのまにか消えてしまつていた。しかし、今年度採用された職員には野球部出身が多いということもあり、再度その話が浮上してきたのである。とにかく野球部だった人と、野球好きな人を集めて試合をやろうということになり、五月二十九日に記念すべき第一回目の「野球」が袖ヶ浦球場で行われた。皆子どもになったような顔で夢中になって白球を追い、バットを握つていた。中には「俺はこんなにヘタクソだったか？」と首を傾げる者。エラーを「グロブが悪い」と言い訳をする者...

私は小、中、高と野球三昧の学生生活を送つていた。もちろん当時はプロ野球選手を目指していたが、運がないのか？ドラフト会議には名前が挙がらなかった。(今でも期待を...)高校時代には現西武ライオンズの松坂選手と何度か対戦したことがあるが、あんなにやらないとプロにはなれないのかと納得したものである。あの直球は高校野球界にとつてはスピード違反である。とにかく速い！過去に対戦した投手の中には140キロ台を投げる人もいたが、ボールの縫い目はある程度見える。簡単に言うと球の回転速度が違うのである。それぐらい質の違う直球を僅か18・44mという距離で経験できたことはとても貴重なことだと思ふ。自慢話はさておき、ふる里学舎の一員となった私は野球への情熱は胸の奥にしまつて日々の仕事に取り組んできた。しかし、今再び野球が出来る嬉しさと勝負への熱い気持ちが甦り、ふる里学舎で野球が出来る幸せと喜びを感じている。

さて、学舎野球部だがオーナー兼終身名誉監督として里見理事長監督として三股部長。そしてキャプテンを私が務める(実力で?)こととなった。二回練習を行い野球感覚の復活とチーム作りに汗を流した。練習の先に見ているのはもちろん「全国大会」出場である。しかし「全国」へ行くには、関東大会を勝ち抜かなければならない。関東地区で三チーム全国への椅子が設けられているが、確によると全十チームの内二チームは毎年の全国大会で上位に入るレベルと聞いている。ならば残りの一つの椅子を奪取したいのだが...

当然、全国を目指すのであればイケてるユニホームを作りたい！毎日野球カテゴリーと睨めっこしながらイメージを膨らませ、いざ業者と打ち合わせ。千葉県では我々ふる里学舎と大久保学園が関東大会に出場するのだが、お互いの実力を計るために七月二十三日に練習試合を予定していた。何とか間に合うように。そして大久保学園よりかっこいいユニホームを！試合当日、敵地に乗り込んだ野球部員はかっ



こよく、強そうに見える真新しいユニホームに袖を通し、意気揚々とアップを行った。いざ勝負！相手投手は強豪大学でプレーしていた経歴の持ち主。場面は一回表2アウトランナー1、2塁。絶好のチャンス！バッターボックスに立った私は、現役時代の緊張感が蘇つた。相手投手が投じた二球目。カーブをなんとかセンター前に弾き返し、記念すべきチーム初得点！おいしい場面とキャプテンとしての責任を果たし「俺つてスゲー！」と堂上で有頂天。その後も皆の活躍により十七対一で見事に初陣を飾ることが出来た。久々の「野球」を味わえて本当に嬉しい気持ちとなった。まさかふる里学舎に就職してから野球が出来るとは思つてもいなかった。

ここで宣言したい。必ず全国大会に行きます！
(ふる里学舎支援員)

編集後記

青い空、青い海、キラキラ輝く太陽！
利用者のNさんが「ほらっつ」と言い、満面の笑みで持ってきたクワガタ。「いい汗かいたあ」と清々しい顔をしたKさん。
まさに夏真っ盛り！
みなさん、いかがお過ごしですか。

まだまだ暑さの続く和田浦から
佐啓五十八号をお届けします。
高橋 宋和